

安全・安心な 取手市に

吉田 宏 議員



平成26年度に設置された防犯カメラ(白山地先)

た付近、危険な通学路等が主な設置箇所の子定。
問 2ルート目となる取手駅東口バリアフリー化の協議の経過は。

答 子どもたちへの読み聞かせだけでなく、高齢者の方へも今後考えていく。
問 見守りキーホルダーの配布を提案し続けているが、その後どのように検討されているのか。
健康福祉部参事 導入している土浦市を調査している。今後も前向きに検討。

問 具体的な整備箇所は決まっているか。
都市整備部次長 駅構内の構造等を踏まえ、利用者の利便性向上を念頭にこれから検討を進めていく。

早期発見・対策が急務 認知症予防

阿部 洋子 議員

問 認知症予防のため、回想法を提案し続けている。国際図書館連盟は認知症の方のための図書館サービスガイドラインを発表している。具体的に、取手市でのサービスは。
教育部長 現在、具体的なものは無い。

問 昔読んだ絵本や生まれ育った場所の写真、おもちや、学校で習った歌が収録されているCDなどを貸し出し、認知症予防推進を。
図書館課長 高齢福祉課と連携しながら考えたい。

問 図書館まつりでは、図書館ボランティアの方々が熱心に運営されていた。回想キットの貸し出しや、健康おしゃべりコーディネートなど育成し、図書館の活用を。
答 子どもたちへの読み聞かせだけでなく、高齢者の方へも今後考えていく。
問 見守りキーホルダーの配布を提案し続けているが、その後どのように検討されているのか。
健康福祉部参事 導入している土浦市を調査している。今後も前向きに検討。

熱心に運営されていた。回想キットの貸し出しや、健康おしゃべりコーディネートなど育成し、図書館の活用を。
答 子どもたちへの読み聞かせだけでなく、高齢者の方へも今後考えていく。
問 見守りキーホルダーの配布を提案し続けているが、その後どのように検討されているのか。
健康福祉部参事 導入している土浦市を調査している。今後も前向きに検討。

問 緊急通報システム更新で高齢者ケア充実を！
石井 めぐみ 議員
問 取手市の高齢化率は平成5年に9.1%であったものが、25年には27.7%まで増加。37年には35%になると推計されている。
高齡者宅への駆けつけ、地域で高齢者が孤立することを防ぐなど、民生委員の存在が非常に大きい。同時に、緊急通報システムも大切なシステムである。このシステムは、平成3年から始まり、これまで更新されていない。高齢者を地域社

答 他のシステムも含め、慎重に検討。

問 取手市の高齢化率は平成5年に9.1%であったものが、25年には27.7%まで増加。37年には35%になると推計されている。
高齡者宅への駆けつけ、地域で高齢者が孤立することを防ぐなど、民生委員の存在が非常に大きい。同時に、緊急通報システムも大切なシステムである。このシステムは、平成3年から始まり、これまで更新されていない。高齢者を地域社

充実せよ！ 学習サポート体制

池田 慈 議員



白山西小学校

公共施設として存続が 市民の意見 白山西小

川又 貞夫 議員

問 白山西小が来年3月廃校となるが、この跡地利用はどうなるのか。
政策推進部長 現在、具体的な検討はしていない。
問 近隣住民からは、災害時の避難所に指定されているため、民間に売り渡さず市の施設として残してほしいという意見がほとんどである。
答 公共的利用だけでなく、あらかじめ民間の目線から見た場合は、どのような利用があるか、民間の反応はどうかを事前に調査しているが、白山西小の場所に関しては民間企業から進出の返答はいただいていない。具体的な検討は今後進めていく。

問 取手市が実施している授業中の学習サポート体制はどのようになっているか。
教育部長 県が学級数や1学級の児童数が多い教室を中心に指導教員を配置。配置できない学校に対しては、市で非常勤講師を配置している。また、楽しく学ぶ学級づくり事業として、36人以上の学級に1人、非常勤講師を県で配置している。
問 取手市の支援は児童への支援だが、守谷市では教員免許有資格者である学習支援ティーチャーが配置され、先生から高評価を得ている。取手市でも実施を。
指導課長 先行事例等を参考とさせていただきたい。
問 貧困家庭への対策として、土曜日の学習支援はどのように検討されているか。
教育部長 検討している。
問 放課後子どもクラブに学習アドバイザーの増員を。
スポーツ生涯学習課長 学習アドバイザー6人は維持し、学校や支援員との連絡調整のためのコーディネーターを1人増員し、2人にしていく。それにより、2班に分かれたとき、コーディネーターが学習関係に携わっていけると考えている。

問 取手市の高齢化率は平成5年に9.1%であったものが、25年には27.7%まで増加。37年には35%になると推計されている。
高齡者宅への駆けつけ、地域で高齢者が孤立することを防ぐなど、民生委員の存在が非常に大きい。同時に、緊急通報システムも大切なシステムである。このシステムは、平成3年から始まり、これまで更新されていない。高齢者を地域社



緊急通報装置 据置型(左)/ペンダント型(右)

※緊急通報システム：一人暮らし高齢者等が災害、急病、事故等のため救助を必要とするときに、押しボタン発信機を利用して緊急通報先に通報し、当該高齢者の救助、援助を行う。